

新潟県立月ヶ岡特別支援学校見附分校 学校評価

令和6年度を取組と今後に向けて

1 学校経営の重点における今年度の取組について

＜重点1＞自立と社会参加につながる力の育成と個性の伸長について

当校では、生徒一人一人に個別の指導計画を作成し、各教科等の授業においてねらいをもった指導や支援を行っている。特に生徒の実態を踏まえた自立活動の指導課題を年間の長期目標に位置付け、学校教育活動全体を通して指導するようにしてきた。職場実習や校内実習、担任との面談等を通して、将来について考えたり、自分の課題を改善しようと取り組んだりする生徒が増えている。

今後も生徒がより良い自分を求めているよう対話を繰り返しながら、一人一人に応じた指導を行う。

＜重点2＞見附分校のコンセプトの実現のための授業の充実

1年生の「共通カリキュラム」の指導は、去年の取組を踏まえて、計画的に指導を行った。その中で、生徒の取組の様子を踏まえて活動内容を工夫し、ライフスキルやスポーツなど、年間指導計画を見直すことを行った。今年度は、2年生の後半からコース別学習を新たに開始し、生徒の希望する進路に応じた指導を行った。「スタディチャレンジコース（進学）」は、「専門学習」で専門学校のカリキュラム調べ、専門学校で学ぶことに関わるレポート作成等に取り組み、進学先の専門学校や学び方について考えを深めた。また、「ジョブチャレンジコース（就労）」は、実践的な職業指導として近隣の施設で清掃作業を行う中で、仕事への責任感や仲間と協力して働こうとする協調性を高めることにつながった。

一方で、不登校や集団参加の苦手な生徒が昨年より増え、生徒指導部を中心に対応に当たった。多目的室内に個室を設定し、個別に学習ができるように配慮したり、生徒指導主事や養護教諭等との相談の機会を柔軟に設定したりしたことで、生徒の中には登校する回数や教師と活動する時間が増えている。

今後も生徒の進路や生活における将来像を見据え、必要な指導の充実を図る。

＜重点3＞見附高校や専門学校、地域の職場等との連携を図る

見附高校生との交流では、昨年度同様に体育祭（6/6）、文化祭（10/19）の学校行事を合同で実施した。体育祭では当校生徒が参加できる競技を増やし、閉会式まで参加する計画で実施した。文化祭では、前夜祭や当日の企画を通して交流した。昨年に比べ、高校側の職員と連携が進み、充実した取組を実施することができた。他にも、見附市内の施設清掃、職場見学や専門学校見学、見附市内在住の方を講師に招いた学習など、新たに連携した取組を広げることができた。今後も引き続き、見附高校生との交流及び共同学習と、地域と連携した教育活動の充実を推進する。

＜その他＞

○PTA活動

7/23 PTA交流会：ボウリング大会（サウンドボウル見附店）

8/23 PTA進路見学会：職場見学（あったかハート・ほしゆう・藤次郎）
講演会（あったかハート成田様、関根県央BM）

○オープンスクール

学校向け：7/4（参加者63人）※参加者：中3生徒、保護者、学校職員

専門学校、企業等向け：11/12（参加者28人）※参加者：専門学校、企業、福祉、行政等

○いじめの認知（令和6年2月17日現在） 7件

主な内容：冷やかしかからかい、嫌なことを言われる

※新潟県教育委員会では、「いじめ見逃しゼロ」に向けた積極的ないじめの認知を推進。

○センター的機能

生徒支援相談：来校16回、訪問24回 ※見附高校サポートラウンジ13回、ケース会議5回

○外部機関との連携

・スクールカウンセラー来校5回 ・スクールソーシャルワーカー来校19回

・行政（燕市、三条市）、相談事業所、フリージアみつけ等：支援会議13回、電話相談6回

2 学校経営の重点に関する学校評価アンケートについて

アンケートの回収数 生徒・保護者：(回答数) 21 / 27

<重点1> 自立と社会参加につながる力の育成と個性の伸長について

項目1「学校は、一人一人の個性や教育的ニーズから適切な目標を設定し、それに応じた指導・支援を工夫していたか？」

	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	全く当てはまらない
保護者	57.1%	38.1%	4.8%	0.0%
教職員	10.0%	90.0%	0.0%	0.0%

項目2「学校は、家庭や関係機関との連絡や意思疎通を十分図れるよう工夫し、連携していたか？」

	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	全く当てはまらない
保護者	47.6%	52.4%	0.0%	0.0%
教職員	30.0%	40.0%	30.0%	0.0%

<重点2> 見附分校のコンセプトの実現のための授業の充実

項目3「学校は、授業や様々な教育活動（校外学習や防災教育、性教育など）を工夫して取り組んでいたか。」

	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	全く当てはまらない
保護者	61.9%	38.1%	0.0%	0.0%
教職員	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%

<重点3> 見附高校や専門学校、地域の職場等との連携を図る

項目4「学校は、生徒同士の交流（体育祭や文化祭など）を図りながら共生に向けた活動や支援の実施をしたか。」

	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	全く当てはまらない
保護者	47.6%	52.4%	0.0%	0.0%
教職員	30.0%	70.0%	0.0%	0.0%

項目5「学校は、生徒のニーズに合わせながら、職場見学や校内実習などを設定する等、想定される進路先との連携や生徒の支援等を行っていたか。」

	よくあてはまる	あてはまる	あまりあてはまらない	全く当てはまらない
保護者	52.4%	47.6%	0.0%	0.0%
教職員	40.0%	50.0%	10.0%	0.0%

○学校評価アンケートから

保護者アンケートからは、「よくあてはまる」「あてはまる」の数値が高く、感想からは「とてもよい支援をしてもらってありがたい」「とても一生懸命やってくださっている」など肯定的な意見があった。また、教職員アンケートでは、項目2が低い評価となった。不登校や気持ちが不安定な生徒等への対応が適切かどうか不安な職員が多い。今後も引き続き、職員間で情報共有しながら抱え込まない取組を推進するとともに、保護者や関係機関等と連携しながら進める必要がある。

3 当校の課題と今後に向けて

○進路指導の充実

3年生は就労または進学を進路決定に向けて、より進路指導が重要となる。コース別学習と職場実習等に関連させながら、就労先や進学先での生活を見通した指導の充実を図るとともに、生徒一人一人と実践を踏まえた対話を通して生徒が主体的に進路選択できるように指導場面や体制を工夫する。

○教科指導の指導内容や授業の見直し

これまで知的障害特別支援学校の教科指導を模索してきたが、改めて指導内容や授業を見直す必要がある。生活に役立つ視点を大切にされた実地的・体験的な学習活動や、各教科との関連性（特に、2学年後期からの教科学習<社会、理科、英語との関連等>）を整理しながら効果的な学びの充実を図る。

○不登校や気持ちのコントロールに課題のある生徒への対応

不登校や気持ちのコントロールが難しい生徒への対応には困難さがある。担任が問題を抱えこまないよう生徒理解の場を週に1回定期的に設定するとともに、生徒指導主事を中心に相談できる体制を構築する。また、個別対応が必要な生徒用の個室を多目的室に加え、保健室にも整備する。